



花きの県別生産出荷概況(3月見通し)

令和3年2月28日現在  
出典:花き流通情報連絡協議会資料

品目		販売における現状と今後の見通し	
バラ	現状	西南暖地は昨年に対し出荷量が約90%程度、高冷地は約60~70%程度になっている。コロナ禍の為、例年にもまして重油を焚いていないと思われる。フラワーバレンタインの引き合いは赤中心に活発であったが、ブライダルは皆無に近い為、単価は出ない状況。緊急事態宣言が解除されない限り、ブライダルは相当厳しい(大田花き)。入荷数量は少ない状況が続いた。バレンタイン需要により赤バラは高値相場となった(FAJ)。2月はフラワーバレンタインで動きがあった。予想ではバラ類が後半から増える相場的には上向きになった(第一花き)。入荷は少ない。バレンタインで、赤とピンクの引き合いは強い(世田谷花き)。国内産の入荷は例年並みだが、輸入物がコロナ禍でいつもの2~3程度の入荷量で品薄感がある。販売中は下位等級のひきあいが強くと堅調(東日本板橋花き)。	
	見通し	大田花き	ブライダルが無い為、大きな需要は見込まれないが、月中、月末に向け送別需要が見込まれる。謝恩会は昨年同様に中止が多いと思われ、期待薄。2月の出荷が少なかった西南暖地は、上旬に数量が多くなる見込み。
		FAJ	入荷数量は増えてくるものの、微増の予定。歓送迎の需要により高値相場が見込まれる。
		第一花き	昨年のような卒業式のキャンセルはなさそうであるが、壇上の花がメインであろう。その後の謝恩会や送別会に關しての動きは厳しい。産地もハウスの暖房を焚きこむことがなく、だらだらとした出荷が予想される。
		世田谷花き	徐々に入荷も増える見込み。中下旬に期待。
		東日本板橋花き	入荷量、販売状況は引き続き同様の展開となる見込み。
アルストロメリア	現状	愛知中心に安定した入荷量だったが、北海道、青森、長野と少ない入荷量となった。葬儀需要は一定数あるが減少、ブーケメーカー中心に下位等級の販売となった。単価帯は数量減少のため、昨年並みで推移した(大田花き)。長野・山形より平年並みの入荷。やや弱めの引き合いだが、量販を中心に安定した取引となった(FAJ)。冷え込みの影響で入荷が減ったが、バレンタイン需要などがあつたものの、販売は苦戦が続いている(第一花き)。例年並みの出荷量だが引き合いは弱い。業務需要にムラがある(世田谷花き)。愛知中心の入荷。昨年より少なめの入荷(東日本板橋花き)。	
	見通し	大田花き	気温の上昇に伴い、各産地増加していく。彼岸需要を見込んではいるが、葬儀需要減少で、大きく単価は変わらない見込み。各産地下旬に向け増加していく。
		FAJ	引き続き長野・山形より入荷予定。花束需要等により、量販から専門店まで活発な取引を見込む。
		第一花き	品質もよくなり、品種も入荷も増え始める。
		世田谷花き	増量見込みも、低調な相場となりそう。
		東日本板橋花き	愛知中心の入荷。昨年並みの出荷予定だが、天候次第で入荷増減あり。